

園芸学科通信

第13号

滋賀県レイカディア大学
「第40期生」の入学式を挙
行
於：レイカディア大学草津校

滋賀県レイカディア大学第40期生の入学式が、平成29年10月3日(火)10時から、草津市笠山にある滋賀県立長寿社会福祉センター内「滋賀県レイカディア大学草津校」で挙行された。我が第39期園芸学科生も参加した。入学式会場となった長寿社会福祉センター大教室では、県関係者をはじめ多くの来賓の臨席のもと、米原校や草津校で学んでいる上級生である第39期生やレイカディア大学関係者の参列のなか厳かに挙行された。

開式の辞のあと国歌及び校歌の斉唱を行い、その後、入学を心待ちにしていた第40期生の代表に「入学許可証」が授けられた。その後、渡邊学長の挨拶や来賓として池永滋賀県副知事らの祝辞があり、最後に第40期生の代表が宣誓して入学式を終えた。

今回入学を許可されたのは、米原校59名、草津校130名の合計189名であった。米原校においては、園芸学科28名、北近江化学科17名、健康づくり学科14名が入学許可証を授けられ、学生生活がスタートした。園芸学科の先生生活がスタートした。私たち米原校、園芸学科39期生も昨年の同時期に草津校に於いて入学許可証を、それぞれが期待と不安を持ちながら、前期と後期の履修計画に沿って講義を受けてきた。



レイカディア大学草津校で行われた入学式(レイ大HPから)

昨年発行した園芸学科通信の創刊号の中で記載しましたが、私はレイカディア大学の入学許可を得て机や実技で勉強しています。入学式に参加し、良い機会に、私は何のために入学して勉強しているのかを、大学の設立趣旨を思い返し、今後の知識向上のために努力したいと思います。

滋賀県レイカディア大学の募集要項には「60歳からの学び舎・新しい仲間」の出会い、レイカディア大学で学び、多くの仲間と新しい自分に出会ってみませんか。』のもと、設置の趣旨「人生80年時代を迎え、高齢者の社会参加への意欲の高まりに応え、高齢者の社会参加に知識、教養と技術を身につけ、地域の担い手として登場できるように支援するための」と趣旨説明が行われています。

園芸学科に入学した28名の同志は、期待と不安を持ちながらも、地域に貢献するための方法を勉強することや仲間を作ることに面白く、いろんな活動を満喫することに思っています。

選択講座
■果樹のコンテナ(鉢・ポット)栽培
講師：松原 治夫氏



平成29年10月17日、第39期園芸学科2学年最初の授業である後期選択講座「果樹のコンテナ(鉢・ポット)栽培」を松原治夫講師の授業を受けました。午前9時の授業開始早々、果樹栽培の写真が数点掲出されました。松原講師が実際に取り組んでいる果樹栽培の様子を写真に納め、今日の授業のために持ちこられました。自宅では、サクランボ(ナホレオン・佐藤錦)、キウイ、ぶどう(シャインマスカット)、イチジク(ドーフィン)、柿(太秋・富有柿)などを栽培しているとのこと、みんなは授業を受ける意欲が増し、栽培ポイントを聞き漏らさないように熱心にメモをとっていました。



今日の講義は、果樹を栽培する方法のひとこと「コンテナ(鉢・ポット)栽培」についてです。

その内容は、「栽培に適する環境、置き場所を考えた樹形、良い苗木、栽培する容器、土、肥料、栽培用具、苗木の植え付け、植え替え作業、灌水方法、整枝等、手入れから生木までの樹づくり等、果樹をコンテナで栽培するには多くの関門が待ち受けていることを学びました。特に多くて、多くの項目のなか、松原講師が入れた講義は以下のとおりです。

- ①栽培に適する環境
- ②品種に適した気候、日当たり(午前中から風通し、が良く、風通しが良い場所を選び、※悪いと害虫や病気が発生する)
- ③果実の性質に合わせた、栽培場所やスペースに合わせた樹形に仕立てる。(あんどん仕立て、コロン仕立て、エスバリ仕立て、ファン仕立て、株仕立て)
- ④土づくり(培養土)の条件
- ⑤土づくり(培養土)の条件
- ⑥水やり(培養土)の条件
- ⑦有機物が豊富、保水性や保肥性、水はけや通気性、細根の張りが良いもの、特にコンテナ栽培では、水はけと通気性を最優先する
- ⑧肥料については、有機質肥料と無機質肥料があり、速効性(液肥)や遅効性(油かす)の物があるので、肥力が緩やかに長く持続する「ほかし」(有機質肥料)を基本に用いる
- ⑨苗木の植え付け
- ⑩鉢栽培で大切な作業で、古い根を整理し、新しい根の生育を促す。植え替えは、休眠期、落葉している時など、冬から春が望ましい。排水対策として、こぼし水や発泡スチロールを鉢底に使用すること
- ⑪水やりのポイント。鉢の表面の土が乾いたら、たっぷりこぼし水が基本。春と秋は朝に1回、冬は1週間ほど1回程度、夏は朝夕2回、午前9時頃までに済ませます。

今日の講義を受け、昨年購入したイチジクの栽培に関しての重要事項を話し、果樹の成長に携わることの決意を新たにしました。



レイカディア大学・米原校

■課題学習の取組みを開始 ①
課題学習指導講座・グループワーク手法
講師：森川 裕氏

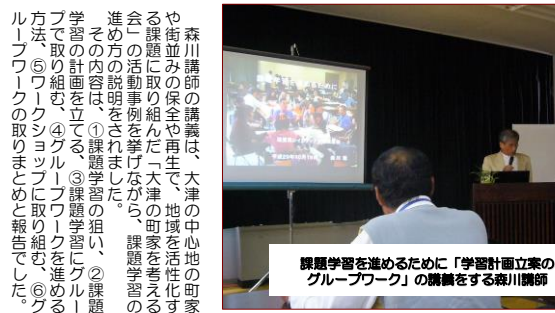
第39期園芸学科生による課題学習の取組みが開始されました。

①課題学習の目的について、「滋賀県レイカディア大学では学生が地域の担い手として登場できるような支援することを設立目的のひとつとしてしています。その具体的なプログラムのひとつとして、グループで調査と研究を行い、地域課題や仲間づくり、まちづくりの取り組み方法や取り組み方について、課題学習を実施します」とあります。すなわち、卒業後の地域での仲間づくりや街づくり、課題についての取り組み方法を学習する、課題を目的として、取り組み方について、この期間内に結果を導き出すこと、成果を上げることを目的はありますが、学習の過程を学ぶ、経験することが目的です。そのため報告は、テーマを追求した結果や実績ではなく、学習に取り組んだ過程やその体験に基づく結果をまとめることになっています。

②研究期間としては、平成29年12月から開始し、平成30年6月末に報告書としてまとめることになっています。

課題学習の取組み開始にあたり、10月19日午前、事務局津本氏から課題学習の進め方についての概要説明がありました。

また、課題学習の取組みにあたり、具体的な進め方(グループワーク手法)についての講義を受けました。講師は、滋賀県立大学地域共生センターの森川裕准教授。講義内容は、「課題学習ガイダンス・基本講座(グループワーク手法)」でした。

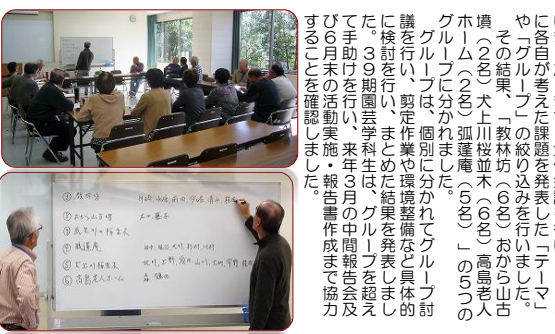


課題学習を進めるために「学習計画立案のグループワーク」の講義をする森川講師

その後、39期生は各学科ごとに分かれたグループ討議を行いました。園芸学科生一同は全体会議を行いました。園芸学科生一同は委員長の司会により、各自が考えているテーマ(タイトル)をポストイットに書いて提出し説明を行いました。同じグループに書いて提出したため、みんなの希望や考えを聞き共有し確認することを計画の第一歩であるグループ分けを行いました。グループ名「や「テーマタイトル」等、討議した内容を模造紙に記入し発表しました。

必修講座「課題学習の取組み」の2回目、10月26日、米原校第1会議室で行いました。まず、全体会議を行い、19日に各自が考えた課題を発表した「テーマ」や「グループ」の絞り込みを行いました。その結果、「教林坊(6名)おたり山古墳(2名)大上川桜並木(6名)高島老人ホーム(2名)狐達庵(5名)」の5つのグループに分かれました。グループは、個別に分かれてグループ討議を行い、剪定作業や環境整備など具体的な検討を行い、まとめた結果を発表しました。39期園芸学科生は、グループを超えて手助けを行い、来年3月の中間報告会及び6月の活動実施・報告書作成まで協力することを確認しました。

■課題学習の取組みを開始 ②
グループ分け及びテーマ選定
米原校事務局



必修講座「課題学習の取組み」の2回目、10月26日、米原校第1会議室で行いました。